

集団登校

桜の花を見ると、息子との集団登校の日々を思い出します。

息子が小学校に入学して2日目の朝、突然「小学校に行かへんし。」と言ってききませんでした。集合場所までなんとか連れて行きましたが、それでも「行かない。」の一点張り。本来集団登校は子どもだけで行くのですが、放っておかず、「今日だけやで。」と言って息子を列に並ばせ、私は列の後ろについて小学生の子どもたちと一緒に集団登校をしました。息子はちらちらと後ろを振り返り、何度も私を確認します。下駄箱までついて行って、ようやく息子は一人で教室へ行きました。

そのやりとりが数日続きました。息子に「なぜ行かないのか。」と尋ねても黙ったままでした。「なぜ嫌がっているのだろう。いつまでこれが続くのだろう。」と私は焦っていました。担任の先生とも相談しました。すると、「原因は様々で本人もはっきりと自覚しているわけではありません。時間をかけてゆっくり向き合うことも大切です。一緒に頑張りましょう。」とアドバイスを受けました。私はよく理解できなかったのですが、「無理に一人で行かさず、できるだけついていこう。」と決めました。

ある時は担任の先生や校長先生が集合場所まで来られ、私は学校全体として息子を大切にしていると感じました。

季節は春から夏秋を経て冬になりました。その頃になると、息子が私を振り返る回数が減っていました。

2学期の終わりに、「春になったら2年生やな。」と話すと、息子はぼつりと言いました。

「…3学期から一人で行くようにがんばってみる…」

3学期の始業日、息子は親がつかなくても集団登校をしました。その日以来、「ついてきてほしい。」と言うことはありません。私たちは喜びましたが、それと同時に理由が分からないので不安は残ったままでした。

また桜の季節がめぐってきて、今、息子は親がつかなくても集団登校をしています。でも、いつ行けなくなるかもしれません。また、これからも様々なことが起こるでしょう。しかし、起こったことをまるごと受け止め、その度息子の不安や悩みに共に向き合い、一緒に取り組む親でありたい、と思っています。

「行ってきます。」

ランドセルを背負って玄関から駆け出す息子の後ろ姿を見ながら、「今日も一日がんばっておいで。」と心の中でつぶやくのでした。